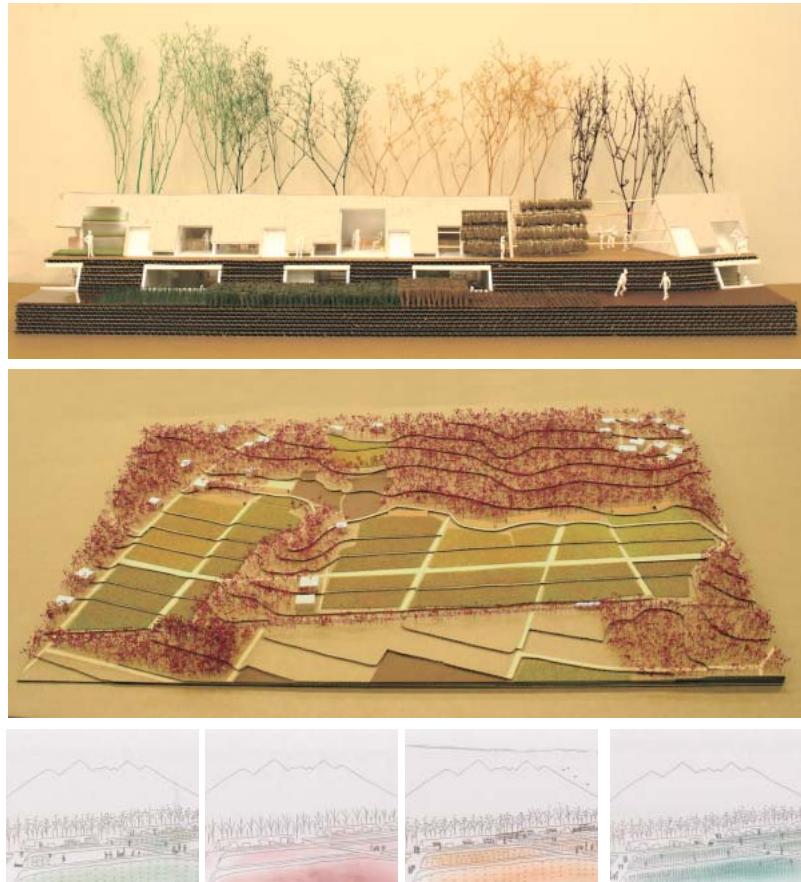




季節とともにかわる建築

清水 信吾 (しみず しんご)

日本大学 生産工学部 建築工学科



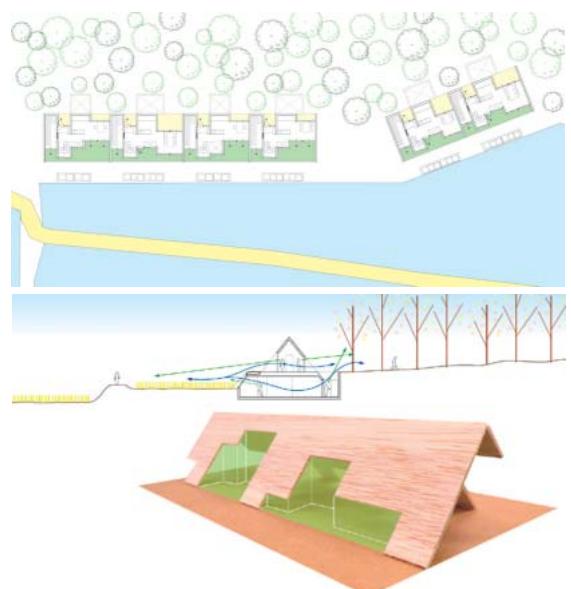
休耕地に田園風景を取り戻し、その風景とともに変化する建築の提案。

農業従事者の過疎・高齢化の進む農村では、人手不足により農地の休耕地化が目立つ。休耕地が広がる風景は、田園風景とは対照的にとても淋しいものである。

そこで、休耕地に都市住民のための一時的な住居を計画する。ここでは地域住民と都市住民とが一体的に稻作を行うことによって、田園風景を取り戻し、そして農地を守っていく。

この建築は刈った稲を干すためにつくられる“はぜ”をデザインモチーフとして持ち、稻作の一部を担いながら変化していく農空間と滞在するための住空間とで構成される。

田園風景が四季の中で変化していくように、この建築も稻作に寄り添うことによって季節の変化をとげる。



講評 作者の原風景である輝かしい小淵沢の田園風景が、今では休耕田が増え、さびしい風景になり変っている。その背景には、過疎や後継者難、高齢化といった現代社会が抱える多くの諸問題が重なり合い複雑化している。あの輝きを取り戻すために、建築には何ができるのか?自身に問い、この作品は生まれた。場の設定の妙があり、デザインモチーフの明快さもある。変わりゆく四季と建築空間は稻作と対話をすることにより、互いに寄り添いその関係性を親密に整えていく。美しい模型は、その想いの深さとともに僕の脳裏に焼き付いた。最後に、君にはこれからも建築と農業について継続して考え、輝かしい未来そして人々に夢を与えるような田園風景を創造してほしい。

(審査員:信太 義晴)